

次は私たちが守る番

土日は、携帯電話が手放せませんでした。検査結果がでたら、すぐに私の携帯に市教委から連絡が入ることになっていたので。そして、待ちに待った連絡が日曜日の午後に入りました。「市長のもとに連絡が入りました。検査を受けた全員、陰性だったそうです！」

私はほっと胸をなでおろしました。同時に、これまで学校が感染症対策としてやってきたことが間違いはなかったんだと確信し、これからも気を引き締めようと思いました。

そして、もう一つ、強く思ったことがありました。陽性が判明し現在入院している生徒を、守らなければならないということです。

今朝私は、放送を通して生徒たちに次のように語りました。

「私はこの生徒を褒めたいと考えています。学校に登校した月曜日、マスクを一日中付けていたこと。デイスタンスを意識して仲間と接していたこと。調子が悪くなってから自宅にいたこと。こういう誠実な姿があったからこそ、今回の検査で濃厚接触者が一人もおらず、「全員が陰性」という結果になったと思うからです。」

感染したことは生徒の責任ではありません。しかも、更なる感染を自分の良識ある行動で、未然に防いでくれました。褒めこそすれ、非難することがあっては絶対いけません。

この生徒はまだ病院に入院しています。昨日、家族に「全員陰性」を知らせたときに、電話の向こうでおばあさんが泣いていらっしやったと聞きました。きっと本人も、安心しながらも大きな大きな責任を感じていることと思います。

みなさん、この仲間が回復したら、ぜひ温かく迎え入れてください。ウイルスの矢面に立ちながら、自分が盾になってウイルスの進入を防いでくれたこの仲間に、これまでのように優しく接してください。」

この生徒はウイルスの矢面に立ち、小さな体で立ち向かっていきました。そして、大きな集団を守ってくれたのです。次は、大きな集団が小さな一人の生徒を守る番だと私は思います。

新型コロナウイルス感染症が人間を脅かすようになってから「クラスター」という言葉を知りました。感染者が数珠つなぎに増えていくことです。それに苦しむ人たちには大変申し訳ありませんが、これはやはり、一人一人の判断のどこかに、目に見えない小さな小さな穴があったがために生まれるもののような気がします。

分厚い壁で遮らなくてもよいのです。一枚のマスク、ちょっとした距離感、話の早めの切り上げ、こういう心がけがウイルスの侵入を防いでくれるのです。

(二月十五日 記)